

つよく、
やさしい東京へ



東京都議会議員(立川市)

都議会
立憲民主党
The Constitutional
Democratic Party of Tokyo

松下政経塾出身

元国際企業経営者

鈴木 烈

今回は、都知事選挙に関する鈴木烈都議の報告を中心にお伝えします。

都議会レポート Vol.3 都知事選 特集号 発行日：2024年8月10日

蓮舫さんと共に走り抜けた50日

去る7月7日投開票の都知事選挙では、蓮舫候補に1,283,262票ものご投票をいただきましたが、私たち立憲民主党をはじめとする蓮舫応援団の力及ばず、落選となってしまいました。

私は、蓮舫さんとは20年来の友人。そのため蓮舫さんが出馬表明を行う前の5月下旬から、蓮舫さんの公約制作チーム(都議2名、国会議員1名、他2名)の一員として、何度も蓮舫さん本人を交えて議論し、公約「7つの約束」を作り上げ、公約発表後も毎日の街頭演説文案の作成等のお手伝いをいたしました。

非正規雇用の正規化や公契約条例を制定することで「現役世代の手取りを増やす(本物の少子化対策)」、知事の政治資金パーティの自粛や徹底した情報公開で、政治とお金の問題を一掃する「本物の東京大改革(古い政治から、新しい政治へ)」等を柱とした公約「7つの約束」は発表後以降、多くの方々にご好評をいただき、手応えを感じていました。選挙には敗れたとはいえ、良い提案、良い問題提起が出来たと感じています。個人的には、私が当選以来取り組んできた都庁の非正規

公務員問題を「7つの約束」の冒頭「約束01」に入れることが出来たことを誇りに思っています。

しかし一方で、私たちの陣営は、国政の与野党対決の構図をそのまま都政に持ちこもうとしてしまったこと、蓮舫さん自身がわざわざ立憲民主党を離党して、無党派層を中心に幅広く支持を呼び掛ける計画であったにも関わらず、立憲民主党のカラーが強すぎる選挙キャンペーンになってしまったこと、既存の蓮舫さんの問題提起型のイメージを払拭するべく、問題提起3割、政策提案7割の広報活動を行っていたつもりでしたが、マスコミで取り上げられるのは、問題提起9割、政策提案1割で、既存のイメージを変えることができなかったこと等、我々応援団の力不足、広報戦略のミス等で蓮舫さんを勝たせることはできませんでした。



選挙戦最終日の7月6日午前、体力の限り頑張りたいという蓮舫さんの要望で、急遽一緒に街宣車にのって、立川市内を回りました。劣勢が伝えられる中、本当に多くの方々のご声援をいただき、とても励まされました。

選挙には敗れましたが、今回の選挙で蓮舫さんを中心に私たちが行った問題提起や政策提案は今でも価値あるものだと考えています。蓮舫さん自身も「このままでは悔しいので、国政復帰を今は考えない。今後も何らかの形で都政に関わっていきたい」と語ってくれています。

私は、蓮舫公約の公約制作チームの一員として、そして都議会議員として、都議会の場で蓮舫さんの公約を引き継ぎ、その実現に取り組んでいく決意です。

東京都議会議員 鈴木 烈

蓮舫さんが掲げた都知事選公約

「7つの約束」(主な政策を抜粋)

*蓮舫さんの演説等で訴えた政策も交えて、鈴木が再編集しています。



約束

01

現役世代の手取りを増やす
— 本物の少子化対策

少子化の原因は非婚化にあります。現役世代の経済的不安を減らして、望む人は結婚できる、そんな東京をつくります。

- 公契約条例を制定し、東京都の取引先企業に従業員の待遇改善を促します。
- 公的サービスに従事する教員や介護員の奨学金返済の支援制度を作ります。
- 東京都の職員16.7万人の20%、3.2万人は非正規公務員です。児童虐待に対応する児童相談所の職員や子どもの不登校に対応するスクールカウンセラー、住民サービスを担う専門職から、正規雇用化を進め、住民サービスを向上させます。



選挙戦序盤の6月24日、蓮舫候補の立川駅での街頭演説には、2,000名に迫る多くの方々にお集まりいただきました。私もマイクを握り、蓮舫支持を訴えました。

約束

06

東京全体をもっと良くする

— 都心の緑を守り、多摩をもっと住みやすく

- 神宮外苑の再開発は見直して、都心の緑を守ります。
- 多摩の住みやすさを向上させて、東京全体のバランスの良い発展を促します。
 - 立川⇄羽田空港を直通50分で結ぶ特急電車の推進にコミットします。
 - シルバーパスの適用を多摩モノレール等にも広げます。
 - PFAS問題の実態調査、原因究明に積極的に取り組みます。

鈴木 烈 れつ 七転び八起の人生だから、
あなたの悲しみ、いきどお 憤りに共感します。

- 1973年、現在50歳。大阪生まれ町田市育ち。柴崎町一丁目在住。
- 早稲田大学法学部卒業。慶應義塾大学大学院SDM研究科修了。(中学受験は全敗して公立中へ、大学院は社会人として働きながら)
- 住友銀行、松下政経塾、葛飾区議。32歳で区長選挙に挑戦するも次点落選。いったん政治の道をあきらめて、友人を頼り台湾へ(住友銀行では壮絶なパワハラに。区長選挙落選で1000万円の借金を背負う。)
- 台湾でレストランを展開する台湾のベンチャー企業に参画。一度は追放されそうになるが、仕事の成果が認められて社長に就任。その後台湾全土および中国への事業拡大に成功。2016年にはCEOとして株式公開を実現。
- 2019年に帰国。再び政治の道を志し、2021年の都議選(町田市選挙区)で立候補するも次点にて落選。2023年10月の都議補選(立川市選挙区)、旧知の酒井市長とのご縁で立候補、91票差の僅差で当選。
- 家族は、妻、娘(中2)、保護ネコ2匹。趣味はラジコンレース、溪流釣り。

娘と溪流釣り



ネコと自宅で



立憲民主党 東京都議会議員(立川市) 鈴木烈 事務所 〒190-0023 立川市柴崎町 3-10-6 イチカワビル 102

TEL 042-506-1788 FAX 042-506-1789 MAIL office@retsu.jp WEB retsu.jp

〈プレス立憲民主 号外〉発行：立憲民主党「プレス立憲民主」編集部 〒100-0014 千代田区永田町 1-11-1-6F TEL03-6261-0435